

日毎に秋めいてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

最近ではネットオークションやフリマサイト等で、目当ての物を好きな時間にすぐに見つけられる便利な時代になりましたが、デジタルデトックスも兼ねて、札幌市内の豊平神社で定期開催されている骨董青空市へお邪魔しました。

神社の境内という特別な場所柄や、ノスタルジック感満載の商品でタイムスリップしたかのような感覚に襲われながらのお宝探しは新鮮で、久しぶりにワクワクする事が出来ました。

残念ながら今回は、掘り出し物に出会うことは叶いませんでしたが、機会があればまたお邪魔したいと思います。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD

世界の拠点から
- From the base in the world -



今回は、沖縄県の八重山諸島にある南国の楽園『石垣島』をご紹介します。

石垣島といえば、あの息をのむような『石垣ブルー』と呼ばれる青い海ではないでしょうか。そして、石垣牛や南国フルーツもとても美味しいです。また、『星空保護区』にも認定された石垣島では、夜になると国際的に認められた88星座のうち、84の星座を見ることができます。南十字星など、本土では見ることが難しい星々が輝く満天の星空は、まるでプラネタリウムそのものです。ゆったりと流れる時間の中で見上げる星空は、感動を与えてくれます。日々の疲れをリフレッシュさせてくれ、きっと癒してくれます。

石垣島はただの観光地ではなく、美しい自然に独自の文化、そして美味しい食がたくさんあるところです。八重山諸島の離島巡りの拠点として、ぜひ次の休暇は石垣島のゆったりとした島時間を過ごされてみてはいかがでしょうか。



西日本営業所(部長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は東京都中野区の中野サンモール商店街を紹介いたします。

JR中野駅北口広場から北へ224m延びているアーケード型の商店街で、北に進んだ突き当りには中野ブロードウェイがあります(私の住んでいる船橋からでも電車で1時間ぐらいで行けますね)。

商店街では100店舗以上が営業しており、チェーン店系の新しい店舗や昭和を感じさせるような個人経営の店舗、整体などの店舗が混在しています。飲食店などもチェーン店系のお店と、昔から営業しているような老舗っぽいお店に分かれる感じです。(個人的には老舗っぽいお店に惹かれますが…)。

色々なお店がある分、来客している年齢層も幅広いのに加えて、サブカルチャー的なものを全般的に扱っている『まんだらけ』が中野ブロードウェイ内にあることもあり、外国人観光客も非常に多く見受けられました。

私の地元名古屋には、このようなアーケード型商店街は数が少ないので、とても新鮮な感じがしました。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

今年は夏が長いですね。暑い時期、食欲がなくなりがちですが皆さまはいかがでしょうか？

夏のデザートといえば、カキ氷とか冷たい物がいいですね。でも、今回は見た目が涼しい雰囲気のお饅頭をご紹介します。

それは岐阜県大垣市にある金蝶園総本家の『水まんじゅう』です。この地域は良質な地下水が豊富で、暑い夏に冷たい地下水に漬けて食べる様になったのが大垣名物の水まんじゅうです。

お店に入ると冷たい水が流れ続ける水槽があり、その中に1つ1つ小さなおちょこの様な椀に入った水まんじゅうが並んでいます。水の流れる様子だけ見ても涼しさを感じられました。注文が入るとそこからすくってくれ、その場でパック詰めして頂けるため、みずみずしくプルプルの水まんじゅうが頂けます。皮は透明で中のあんこが薄っすらと見え、口当たりも文字通りプルプルですぐに餡の甘さが伝わってきます。外側は葛とわらび粉を混ぜているので柔らかいのは納得。

9月で一旦終了してしまいましたが、来年も絶対に買いに行きたい。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

先日、高校時代の友達との40周年の再会イベントがジャカルタ市内で開かれました。年齢的に大体60歳ぐらいで、もうすでにお婆さん、お爺さんたちの集まりみたいなイベントでした。再会したときにみんなの姿がだいぶ変わっていたので「ええ…君は誰?」という聞き方をしょっちゅうしていました。もちろん、あまり変わっていない方もいました。

私の場合、高校を卒業してすぐ日本の大学に行って7年間もインドネシアから離れ、そのあとインドネシアに戻ってからはすぐに就職しました。高校時代の友達に会う機会がなくて、なかなか思い出せず失礼な聞き方をしていましたが、その友達を思い出したらすぐ楽しく会話できて、懐かしい高校時代の話をしていました。「子供何人?」「孫は何人?」、たまにささやき声で「ワイフは何人?」と聞いて笑っていました。病氣や事故で亡くなった友達の写真も貼られていました。

再会イベントでは舞台上で歌を歌ったり、何人か踊りをしたりする出し物もあって、とても楽しく過ごせました。次回は何周年にするか、その時の人数はもうこんなに多くはないでしょうねと少し寂しい言い方をしていた友達もいました。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～ちょっと入れれば本格味に～

毎月お届けする拠点日よりですが、気づけば3カ月に1度は食べ物ネタを書いていた。それほど中国では食に関するトピックが豊富なんです。高級中華からB級、C級庶民フードまで当たりもあり、ハズレもあり。いつも初めての料理に出会うとワクワクします。

四川料理は日本人でもおなじみのピリ辛中華の代表ですが、四川省だけでなく、湖南省、貴州省も負けていません。中国語には『四川人不怕辣、湖南人辣不怕、貴州人怕不辣』という面白フレーズも。『四川人は辛くても平気、湖南人は辛いほどテンションUP、貴州人は辛くないとテンションDOWN!』でな感じででしょうか。ご当地辛さ我慢ですね。

四川料理の辛さには山椒がつきものですが、私は最近『花椒油(山椒油)』にちょっとハマってます。最近ようやく知った逸品ですが、スーパーで手軽に買える山椒風味のピリピリ調味オイルです。麻婆豆腐にちょっと入れれば本格四川風に!ピリッと痺れる辛さが癖になります。ラーメン、あえ物、炒め物に1さじ混ぜるとパンチのきいたアクセントになり、おすすめです。1瓶300円程度なので、日本へのお土産に買って配ってます。かけすぎ注意ですが、なかなか評判のいい山椒オイルです。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

～『Perfect Sunday』に参加しました!～

先日、KCSの近くにオフィスを構える自動車デザイン会社PHIARO(フィアロ)さんからお誘いいただき、Car Meet『Perfect Sunday』に行ってきました。会場にはたくさんのスポーツカーやクラシックカーが集まり、とてもにぎやかで楽しい雰囲気。美味しいドーナツやコーヒーも用意されていて、クルマを眺めながらリラックスした時間を過ごすことができました。

その中でも特に印象的だったのが、1966年型 Porsche 906 Spyder。エド・パルマー氏のコレクションから特別に展示されたこの一台は、今年のThe QuailでPost-War Racingクラス優勝を飾った名車です。流れるような空力デザインとレーシングヒストリーを背負った姿は、会場でも

ひときわ存在感を放っていました。エンジンが奏でるサウンドは迫力満点で、『本物のレーシングマシンの息づかい』を感じさせてくれました。

今回のイベントを主催してくれたPHIAROさん。実は1939年に日本で創業した、自動車デザインのスペシャリストなんです。今では日本とアメリカに拠点をもち、コンセプトカーのデザインからUI/UX、さらにはEV関連の技術まで幅広く手がけています。『不可能を可能にする』を合言葉に、80年以上もの間、世界のクルマづくりを支えてきた会社だと聞くと、改めてすごいなあと感じます。

普段はなかなか見ることのできない貴重なクルマと出会えた、カリフォルニアらしい特別な一日でした。

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

ユナイテッド・バディ・ベアーズ展がシンガポールで開催されました。この展示会は平和な世界と国家間の友好を願う象徴として、2002年にドイツのベルリンで初めて開催されました。以来、36カ国で開催されてきました。

等身大のクマの彫刻(高さ約2m)150体が円形に展示され、そのうち145体は特定の国を、5体は中立的な立場を表しています。145体のクマはそれぞれ各国のアーティストによってデザインされ、その国の文化を表現しています。シンガポールのデザインは、2010年に行われたコンペティションで選ばれました。蘭、ヘナ、蓮をモチーフにした赤いクマは多文化遺産を表しています。

この展示会は今後、さらに多くの国を巡回する予定です。私たちは、これが単なる象徴に留まらず、平和の実現へと繋がることを願っています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

先日、ハンガリーの首都ブダペストを訪れました。この都市はドナウ川を挟んで西側がブダ、東側がペストです。かつては2つの別々の都市でしたが、19世紀末にブダペストに合併されました。

ブダペストは美しい歴史的建造物で知られ、『東欧のパリ』とも呼ばれています。城や教会、大聖堂、ショッピングセンター、大邸宅、橋、そしてもちろんハンガリー国会議事堂など、どの建物もとても美しいです。ホテルが中心部にあるなら、すべて徒歩圏内です。街角を曲がるたびに、きっと驚くような景色が広がるでしょう。夜には多くの建物がスポットライトで照らされ、あたたかな景色が広がります。再びその美しさに驚かされることでしょう。

もしヨーロッパを訪れ、歴史的な場所を見に行く予定があるのであれば、ぜひ歩きやすい靴を履いてブダペストを訪れてみてください。きっと満足できるはずです。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)